

議事録	
件名	令和2年度第3回 久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進協議会
日程	令和2年9月16日(水)～令和2年9月23日(水)
参加者	松本会長、古村副会長、岡委員、杉本委員、真木委員、中原委員、今里委員、柴田委員、重永委員、山田委員、濱本委員、永江委員、後藤委員、吉永委員、縄崎委員、岩坂委員、永野委員、古賀委員、豊福委員、中園委員、佐藤委員
次第	1. 報告事項(1)地域ケア会議専門部会からの提言について 2. 協議事項(1)第8期計画策定に向けた基本方針について(案)
意見	1. 報告事項
委員	(1)地域ケア会議専門部会からの提言について 支えあい推進会議は、小学校区ごとに設置となっている。現状と活動内容が見えづらい。市として、今後の広報活動に計画を示して欲しい。
委員	課題解決のための情報共有の仕組みづくりを強く希望する。今年の豪雨、台風時にも事業所に地域の要支援者からのSOSが入り、特に地域密着型は、自施設の利用者のみならず、地域の方から、家が浸かりそう、倒壊のリスクが高い、などの理由で避難希望者が多く寄せられた。定員にも限界があり、また介護が必要な人が避難所に行けずに問い合わせがあるなど、災害とコロナでの対応が求められる事態が多く見られた。地域全体の課題ととらえて、地域での連携で要援護者に対応していくことが求められると思う。
委員	諸計画の取り組みについての推進、分析等、良好な実績が出ているが、こころで最後高齢者の実態を調査することも必要と思う。 合併により全てが市としての計画になっている。しかし、4町は昔ながらの(合併時)隣組のつながりが強く、民生委員、自治会長、老人会長を核としている。 隣組で高齢者の実態調査をして、個別に生活上・身体等の問題が分かり、声かけをする役割のひとがいるなど、体系的なものを地域の間人関係ができていて人のできる人が、安心して相談等ができると思う。向こう三軒両隣を活かす。
委員	提言は現状をよく把握されている。実施するための方策が大変である(人、物、金が必要)。
委員	実現のための取り組みとして、ア、イ、ウと色々な取り組みが書かれていた。どの取り組みも大事なことと思う。そして、それらの取り組みに対してのインセンティブ等の仕組みづくりを具体的に話し合う時期になっていると思う。次回には話し合っ欲しい。
委員	2. 協議事項 (1)第8期計画策定に向けた基本方針について 新規:災害や感染症へ備えた体制の整備について 今回の台風時のように、避難しに行ってもいっばいで入れない等がないように状況を随時把握できるようなシステムの構築をお願いしたい。 近所同士で支えあえるような、声かけができるような体制づくりをお願いしたい。(ICTの活用も必要だが、高齢者には分かりづらい) 医療:介護を必要とした場合の医師会が進める久留米地域包括ケアシステム(KICS)との連携も必要ではないかと考える。
委員	人とのつながり、関係性の希薄化が進む中であるからこそ、孤立化しない関係性の構築は必要であることを強く感じる。 しかし、それに相反するかのように新型コロナウイルス感染症予防のために、3密を回避する生活が定着してきている。 第8期計画を進めるうえでも新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたものであることは当然だが、実際は既存のコミュニティも介護事業所も手探りの中で不安を抱えながら感染症対策をどうしていくか悩んでいると思う。 当事者任せにならないためにも、行政から感染症対策のマニュアルの提示や相談窓口の設置等ができないか。
委員	○地域の見守り体制と事業所を含めた地域資源のネットワーク構築の具体策の検討 ○災害に向けた地域助け合いの仕組みと事業所を含めた合同訓練の実施 ○地域包括支援センターの活動体制強化(土日、祭日連絡がつかないなどへの対応と人員への手当て) ○要介護状態にならないための社会参加の仕組み ○久留米市のコンパクトシティ構想の推進に伴い、中心部マンション人口が増加していることに対する対策(自治会加入の促進) ○介護労働力不足へのできるだけ具体的な対策、ハローワーク、シルバー人材、介護ボランティア等との連携強化 ○倒壊、浸水、火災等のリスクが高い古い住宅の実態調査とその結果に基づく支援策検討 ○老々介護、障害のある子どもと同居の高齢者への対策、ごみ屋敷対策
委員	その他の意見 今回コロナ禍でもあるので、できればこうしたやり取りの手段として、デジタル対応を検討していただきたい。